

しこくま ニュースレター



発行：
認定特定非営利活動法人
四国自然史科学研究センター

認定NPO法人四国自然史科学研究センターでは、剣山とその周辺部に生息するツキノワグマの調査研究を行っています。また、得られた研究成果をもとに、保全施策の検討、人とクマの軋轢防止、ツキノワグマの生態や現状に関する情報発信などに、様々な機関や団体と協力して取り組んでいます。ツキノワグマが存続できる地域本来の豊かな自然を後世に繋ぐため、地域とツキノワグマの共生の道筋を検討しています。このニュースレターでは、これまでの調査から分かった四国のツキノワグマのことや、共生の取り組み状況について、地域の皆さんに広くお知らせします。



次郎炭(ジロウギユウ)から剣山を眺める

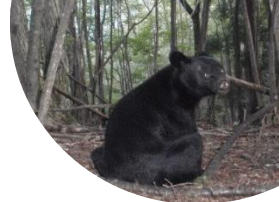
四国のツキノワグマ

四国はツキノワグマが生息する世界で最も小さい島であることをご存知でしょうか？ツキノワグマはアジアに広く分布しますが、島嶼部での生息は非常に稀です。これは、面積が限られる島の環境では、人間の活動が自然環境に与える影響は強く、大型哺乳類は特に早い段階で姿を消す傾向にあるためです。四国も同様で、かつては四国に広く生息していたツキノワグマですが、現在は四国東部の剣山とその周辺部だけに約20頭が残るだけとなりました。ツキノワグマの生息は森の豊かさを象徴すると言われます。四国では剣山系を中心に、ツキノワグマも生息できる誇るべき自然環境が辛うじて残ったと言えます。

クマが持つ傘

生態学の用語で「アンブレラ種」というものがあります。アンブレラ種とは「傘」の意味で、生態系の頂点にいる生き物の生息環境を守ることににより、同じ環境にいる(傘下にある)多種多様な生き物を効率的に守ることができるといえる考え方です。四国のツキノワグマの存続には生息環境である山の整備が必要条件であるため、この種の保全はこの地域の自然環境を広く改善することに繋がる、まさにアンブレラの役割を担います。豊かな自然は地域の基盤です。ツキノワグマの存続は山村地域における足枷ではなく、むしろこの豊かな自然を後世に残すための一つの方法でもあります。

ツキノワグマってどんな動物？



可愛いキャラクターに使われたり、市街地出没や人身事故がニュースになったりと、世の中にはクマに関する情報に溢れています。一方で、本来の姿や生態はあまり知られていません。四国にいるツキノワグマってどんな動物？大きさは？食べ物は？・・・などなど、まずはツキノワグマの基本的な特徴を簡単にご紹介します！

170cm



ネコ目(食肉目)クマ科
ツキノワグマ
Ursus thibetanus japonicus

50~60cm



食べ物

9割以上の食べ物が植物質の雑食性です。季節ごとに森に豊富にある草、葉、花、木の実、昆虫などを中心に様々なものを食べます。基本的に、いわゆる「狩り」はしませんが、シカなどの死体を見つけた時にはこれらも食べます。冬には冬眠をするため、9月頃からは、ブナやミズナラの実であるドングリをひたすら食べてエネルギーを蓄えます。



ブナ



ミズナラ



ミヤマザクラ



アリの巣



ヤマブドウ



ミズキ

ツキノワグマの主な食べもの

大きさ

オス(平均): 体長約140cm 体重約60kg
メス(平均): 体長約120cm 体重約45kg
人間よりも少し小さいくらいの大きさです。歩行時の体高は50~60cm程度です。

寿命

野生下で20歳を超える個体は稀です。動物園など栄養条件がよい飼育個体では30歳を超える個体もいます。

繁殖

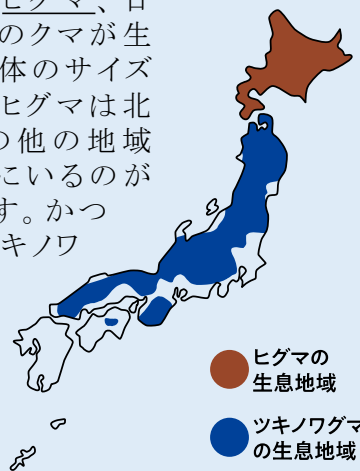
雌雄ともに4歳ごろから繁殖が可能になり、メスは数年おきに1~2頭の子どもを出産します。若いメスは子育てに失敗することが多く、子ども死亡率は特に高いと言われています。

月の輪

胸に「三日月」模様の白い毛が生えています。個体によってその形状は様々です。ツキノワグマの名前の由来にもなっており、英語ではMoon Bear(ムーンベアー:月熊)とも呼ばれます。

日本にいるクマは2種！

ツキノワグマとヒグマ、日本にはこの2種のクマが生息しています。体のサイズが一回り大きなヒグマは北海道のみ、その他の地域(本州と四国)にいるのがツキノワグマです。かつては九州にもツキノワグマが生息していましたが、2012年に環境省により絶滅が宣言されました。



ヒグマの生息地域

ツキノワグマの生息地域

NEXT ISSUE ▶

次回は、四国のツキノワグマの分布や生息数についてご紹介します！

認定特定非営利活動法人
四国自然史科学研究センター
高知県須崎市下分乙470の1
TEL/FAX 0889-40-0840
Email bear_info@lutra.jp
担当: 安藤・山田

本ニュースレターは独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成により作成されました。

